

第 1 学年 国語科学習指導案
ぱんだ組 (5 歳児) 交流活動案

- 1 日 時 平成24年 1 月19日(木) 10 : 30 ~ 11 : 15
- 2 場 所 オープンスペース、図書館
- 3 単元名 ただしく つたえる 「だいじな ことを れんらくしよう」
- 4 単元目標 身近なことなどについて、大事なことを落とさないように話したり聞いたりする。
- 5 単元指導計画 (12時間)

時間	学習活動	評価規準 (観点)
1	教科書を基に、大事なことの連絡について、学習の流れを知る。	大事なことの連絡について、書かれていることを理解している。 (読む)
2	年長児を招待して図書館を案内する交流活動「本のせかいをたのしもう」の計画を立てる。	年長児を招待して交流活動をするために必要な準備を考え計画を立てている。 (関心・意欲・態度)
3、4 5	交流活動「本のせかいをたのしもう」について、関係する他の教師に伝える方法を知る。	目上の人に対して連絡するときの挨拶と連絡の仕方を考え、役割演技をしながら理解している。 (話す・聞く)
6、7	関係する教師に交流活動について連絡し、その結果を学級全体に伝える。	連絡すべきことを関係する教師に伝えたり、その教師から伝えられた大事なことを聞き取り、メモしたりしている。 (話す・聞く)(言語) メモを基に、間違えずに連絡をしたり、関係する教師に丁寧な言葉で話そうとしたりしている。 (話す・聞く)
8、9 10	「おすすめの本」の紹介の仕方や図書館・オープンスペースの使い方など、年長児に説明する内容を話し合い、交流活動の練習をする。	説明の内容を決め、練習している。 (関心・意欲・態度)
11 本時	実際に年長児を招待して、本を紹介したり図書館を案内したりする。(本時 : 交流活動「本のせかいをたのしもう」)	年長児に順序よくかるたのルールを説明したり親しみやすい話し方で図書館を案内したりしている。 (話す・聞く)
12	交流活動を振り返るとともに大事なことを連絡する様々な場面を考え、生活の中で生かしていこうという意欲をもつ。	上手に連絡できたかどうかを振り返り、生活の中で生かしていこうという意欲をもっている。 (関心・意欲・態度)

6 交流活動名 本のせかいをたのしもう

7 交流活動のねらい

< 小学校 >

年長児と一緒にかるたをしたり、図書館で絵本を探したりする中で、必要なことを説明したり、親しみのある言葉で優しく話し掛けたりする。

年長児に関わることで自分の行動や成長を振り返ったり、相手の気持ちに気付いたりする。

< 幼稚園 >

1年生の作ったかるたで遊ぶことで、文字や絵本に親しみをもつ。

1年生との関わりを通して、憧れの気持ちをもつ。

8 交流活動を構想するにあたって

< 小学校 >

(1) 児童の実態

本学級（男子15名、女子10名）の児童は、保護者や教師による読み聞かせはもちろん、自分で絵本を読むことも大好きである。2学期に学習した『おはなしどうぶつえん』でガイドになるうでは、「おすすめの本」を選び、ペアやグループで「おすすめポイント」を紹介したり、紹介された本を読み、感想を伝え合ったりした。同じ時期に生活科で楽しんだかるた遊びがきっかけとなり、自分たちもかるたを作りたいという思いが生まれ、「おはなしどうぶつえん」かるたを作って楽しんだ。

また、明るくて人懐っこい児童が多く、人と関わるのが大好きである。幼稚園児との交流活動や縦割り班での遊びを楽しみにしている。生活科の「なつだ いっしょにあそぼうよ」や「あきのあそびランド」では年長児にいろいろな遊びを説明し、年下の子に優しく接する姿が見られた。しかし、縦割り班の教師や班長など年上の人に対しては、丁寧な言葉を使って関わるできないことも多く、相手に応じた話し方が身に付いていない児童もいる。

(2) 交流活動を位置付ける単元について

国語科の単元「ただしくつたえる『だいじなことを れんらくしよう』」では、教師や目上の人、年下の人に対してどのような言葉遣いをすればよいかについて学んでいく。教材では、学校案内という体験活動を想定し、学習する機会の必然性が生まれるように工夫してある。学校案内をするためには、事前に学校内の様々な立場の人との対話が必要になる。さらに、対話を通して教えてもらったことや、確認した情報を聞き、学級みんなに正確に伝えなければならない。そのためには、メモが必要となる。書くことの単元で学習してきたメモを、本単元では、話すときのメモ、聞き取りのメモの両方で使えるように位置付けている。児童は、年長児に学校案内をするという目的意識をもつことで、どのような内容を、どのような話し方で伝えたらよいか、相手によってどのような言葉遣いが必要なのかを主体的に考え学ぶことができる単元である。そこで、教材で取り上げられている学校案内を実際の活動では、年長児との交流活動として位置付けることにした。案内する場所を図書館にし、かるた遊びを通した絵本の紹介も取り入れることで、文字や絵本への興味が高まっているこの時期の年長児にとっても魅力のある交流活動になると思われる。

(3) 指導に当たって

まず、教材で取り上げている学校案内については、実際に年長児を招待することを伝え学習の目的意識をしっかりとめさせる。生活科の学習では年長児に知らせたいお気に入りの場所として多くの児童が図書館を挙げていることから、学校案内の場所を図書館にして学習を進めていく。他の場所は一日入学の時に案内することも伝えて、今回の学習が活用できることを押

さえておく。図書館を案内する計画を立てる時には、どのような案内にすると年長児に楽しさが伝わるかを考えさせる中で、図書館という施設だけでなく、「おすすめの本」も紹介しようという意見を引き出し、交流活動「本のせかいをたのしもう」の活動へと向かわせたい。本の紹介をするに当たっては、幼稚園ではかるた遊びをしている年長児がいるという情報を伝え、2学期に作って遊んだ「おはなしどうぶつえん」かるたが活用できることに気付かせたい。そして、年長児に分かりやすくかるた遊びのルールを伝える練習をしたり、図書館を案内する練習をしたりして本時に臨ませる。特に、1年生は年長児にとって憧れの存在であることを伝え、自信をもって活動できるように練習に取り組みさせていきたい。また、言葉のとびら『しょうたいじょうづくり』と学級活動を関連させて、招待状を作り、幼稚園に届ける活動を取り入れることで、年長児を招待する期待感を高めておきたい。

本時は、年長児が小学校入学が楽しみになるような交流会にするという活動の目的を意識させるようにし、練習したことを発揮できるように支援したい。その際、教師自身が、年長児と児童が集まっている場面ではたくさんの人に聞こえる声ではきはきと話したり、年長児一人一人に話し掛けるときには親しみやすい話し方で話し掛けるなど、場に応じた話し方や年長児への接し方のモデルを示したい。かるた遊びの後は、図書館での絵本探しへと活動がつながるように、かるたに出てない本をいくつか紹介する。かるた遊びや絵本探しの際には、活動の様子を見守りながら、年長児の「こうしたい」という願いに気付いて関わっていけるよう必要に応じて言葉を補ったり、関わり方のモデルを示したりしていきたい。

< 幼稚園 >

(1) 年長児の姿

幼児は、降園時や保護者のクラブの読み聞かせなどお話を聞く機会が身近にあり、次はどんな話をしてくれるんだろうと楽しみにしている。お話を聞くことで、友達とイメージを共有する楽しさやうれしさ、物語を思い出して語ったり、お決まりのせりふを言ったりすることで感じられる一体感などを味わっている。そのような経験から、自分で絵本を作り友達に聞かせたり、年中・年少児クラスに出かけて読んであげたりするなど、表現することも楽しめるようになっている。友達の読み聞かせを楽しむ中で、それを見て自分も読み聞かせがしたくなる姿も見られる。また、教師が降園前に読んだ「ブレーメンの音楽隊」をきっかけに劇遊びにも取り組んでいる。

文字への興味や関心については、遊びの中でお店の看板を作ったり、「すいーつやさんは10じにひらきます」など必要な情報を書いて伝えようとしたり、友達と手紙のやりとりを楽しんだりするようになっている。かるた取りは、年中組の時から喜んで取り組み、友達と一緒に楽しむ活動の一つとなっている。交代でかるたを読んだり取ったりする中で、役割を決める姿もある。教師も一緒に参加しながらルールが分かりにくい幼児には、必要に応じてヒントを与えたり、ルールを知らせたりしていくことで、自分たちで考えて遊ぶこともできるようになってきている。一方で、たくさん取りたいという思いから、かるたを足の下に敷いて隠すことが原因で、トラブルになったり、遊びをやめてしまったりする幼児もいる。

1年生との交流は、1学期には、児童が幼稚園に来てシャボン玉や水鉄砲などの遊びを一緒に楽しんだり、年長児が小学校に出向き、プールで水遊びを一緒に楽しんだりした。2学期の「あきのあそびランド」では、以前交流したことのある1年生が遊びランドの招待状を届けてくれたことを大変喜び、その翌日には、お礼の気持ちを自分たちなりに手紙にして小学校に届けた。また、遊びランドへの期待感も高く、何日も前からチケットを入れるためのバッグを作る姿も見られた。その過程で、「前のときはおもしろい遊びがあったな」「また行きたいな」「お兄さんやお姉さんはすごいな」などという声上がり、1年生に憧れや親しみをもつことがで

きた。小学校には、本園の卒園児も多く、幼児や担任だった教師に親しみをもち、進んで関わりをもとうとする姿もある。

(2) 交流活動で育てたい内容

かるた取りでは、身近なお兄さん、お姉さんの手作りであるかるたの札に書かれている文字を見て、遊びや生活の中で目にしたり、読んだりしているいろいろな文字を思い出し、興味をもって取り組むことができる考える。また、自分の取った札に描かれている動物の絵本を1年生に紹介してもらうことは、新しい絵本を知るきっかけとなるとともに、1年生への親しみの気持ちを一層強くすると思われる。さらに、1年生が自信をもって話したり、上手に読んだりしている姿を見て、1年生に対する憧れの気持ちも芽生えるだろう。

1年生と一緒に絵本探しを楽しむ図書館での活動では、図書館に興味をもったり、優しく関わってくれる1年生に更に親しみをもち、これからの交流を楽しみにする気持ちが膨らんだりするであろう。

(3) 援助に当たって

新しい場に緊張したり、不安になったりする幼児もいることが予測される。そばで見守ったり、気持ちに寄り添ったりしながら安心して参加できるよう関わっていく。かるたを楽しむ、絵本探しをするなどの活動に意識が向きにくい幼児がいる場合は、活動を分かりやすく知らせたり、絵札に意識を向けさせたりして、楽しんで参加できるようにしていきたい。札を取れず悔しい思いをする幼児がいるだろう。教師がその思いを言葉にして伝えたり、周囲の幼児に気付けさせたりしていく機会としていきたい。1年生がスラスラ読み札を読む姿を見て感心したり、紹介された本を見て自分の経験と照らし合わせたりする姿を、今後の遊びへの刺激を得ている姿と捉え、園での援助に生かしていきたい。

やり取りがぎこちない時には、絵本について興味もてるような言葉を掛け、会話が弾んだり、探したい気持ちがより高まったりするよう働き掛けていく。また、教師が真剣に聞いている姿を見せることで、児童が大切な話をしてくれているということに気付かせるとともに、幼児の知らない言葉や難しい言葉は、必要に応じて分かりやすく伝え、幼児と児童が親しく関わることのできる雰囲気づくりに努めていきたい。

9 本時の指導

(1) 本時のねらい

< 小学校 >

交流活動の場で、年長児に伝わるようにルールを説明したり、親しみやすい話し方で図書館を案内したりする。

< 幼稚園 >

交流活動に興味をもって取り組み、1年生との関わりを楽しむ中で、1年生への親しみや憧れの気持ちを膨らませる。

(2) 準備

どうぶつかるた、絵本

(3) 展 開

学習活動	児童の意識の流れ (———) 幼児の意識の流れ (-----)	指導上の留意点 () と評価 () 幼児への援助 ()
1 本時のめあてを確認する	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本のせかいをたのしもう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> かるたでお薦めの本を紹介しよう。 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> どんなかるたをしてくれるのかな。 </div> </div>	<p>1年生と年長児のそれぞれのめあてを確認し、活動の目的を意識させるようにする。</p> <p>児童や友達との関わりが密になるように少人数の6つのグループをつくっておく。</p>
2 かるた遊びをして、お薦めの本の紹介をする。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「おはなしどうぶつえん」かるたをしよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> 分かりやすいように大きな声でゆっくり読もう。 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> ようし、がんばって札を取ろう。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> 見付けにくそうだな。もう一回読んであげよう。 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> やった取れた。 なかなか、見付からないな。 取れなかった。残念。 </div> </div>	<p>児童のルール説明が分かりにくい場合は、年長児の気持ちを代弁したり、尋ね方のモデルを示したりして中継ぎを行う。</p> <p>年長児の思いに気付いて柔軟に対応できるように、年長児が絵札を見付けにくい場合どうすればいいのかなどをあらかじめ考えさせておく。</p> <p>年長児に伝わるように順序よくかるたのルールを説明したり、はきはきと読み札を読んだりできたか。(話す・聞く)</p>
3 図書館を案内する。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">動物が出てくる絵本を探しに図書館に行ってみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> かるたで紹介した絵本はここにあるよ。 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> 図書館ってどんな所だろう。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> 見た本は元の本棚に返すんだよ。 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> たくさんの本があるんだな。 動物の絵本を見つけたよ。 </div> </div>	<p>いくつかの本を見せて、図書館にはたくさんのおもしろい本があることを伝え、図書館へと誘う。</p> <p>いろいろな本に目が向く年長児の姿を受け止めつつ、動物の絵本探しも楽しめるように意識を向けさせたり、1年生と一緒に探したりできるようにしていく。</p> <p>年長児に優しく話し掛けながら上手に絵本探しができていくグループに賞賛の声を掛ける。</p> <p>親しみやすい話し方で年長児に図書館を案内し、絵本を見付けることができたか。</p>
4 学習を振り返る。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">感想を伝え合おう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> 年長児さんが喜んでくれてよかったな。 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> また、図書館に来たいな。 </div> </div>	<p>1年生と年長児のそれぞれのめあてに沿って感想が伝え合えるように互いの思いを引き出す。</p>

10 研究の視点

自分の思いや考えを伝え合う授業の展開が工夫されていたか。